



## 第78回卒業証書授与式



令和8年3月3日

### 式 辞

児安が丘の桜のつぼみが、厳しい冬を乗り越え、今年もその時が来るのを待つ姿に春の訪れを感じます。今日のこの佳き日に、PTA 会長 林 一幸様、同窓会会長 松村 玲央様をはじめ、多数のご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、第 78 回卒業証書授与式を挙行できますことは、本校生徒・教職員一堂にとりまして、この上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。この晴れの日を迎えることができたのは、皆さんが「質実剛健」「文武両道」のもと、勉学や部活動、学校行事に全力で取り組み続けた努力の成果です。同時に、楽しい時や前向きな時だけではなく、苦しい時や悲しい時にも、ともに寄り添い、いっしょに歩み続けてくれた仲間やご家族、そして多くの方々の支えがあったことを忘れないでください。

さて、皆さんが本校に入学したのは、新型コロナウイルスが五類へ移行し、かけがえのない日常が学校にも戻ってきた年でした。皆さんが中学校時代に制約されてきた学校行事も、部活動も、そして何気ない友人との時間も、まだまだ警戒しながらではありますが、思い切り全身で体感することができたのではないのでしょうか。

一方で、二年前に発生した能登半島地震、そして豪雨災害と、私たちの身近な人たちが被害に会い、傷つき苦しむといった出来事も発生し、今もなおその復興に向けた歩みは続いています。

現代の社会は VUCA の時代、すなわち先行きが不透明で、将来の予測が不可能な時代と言われていきます。たしかに、その不確実性は、これまでの時代よりも、はるかに高まったと言えるでしょう。しかしながら、そもそも私たちそれぞれに待ち構えている運命は、もともと未知のものであったとも言えるはずです。かつて、ある小説の中に次のような一節がありました。

「あなたが無駄に過ごした“今日”は、昨日亡くなっていった誰かが、どうしても生きてかった“明日”なんだ」

私たちは、大切な何かを失ったときに、はじめてその価値に気づかされるものです。そのことを、私たちは、コロナ禍や震災での制約、不自由さの中で、そしてありふれた日常やいつも時間とともにした人たちとの別れの中で思い知らされるのかもしれませんが。だからこそ、何気ないあたり前の日常や、縁あって出会ったすべての人たちとの関りに感謝することが、一瞬一瞬を無駄にしないということにつながるのではないのでしょうか。先ほどのフレーズ

「あなたが無駄に過ごした“今日”は、昨日亡くなっていった誰かが、どうしても生きてかった“明日”なんだ」

私たちは、この言葉をかみしめながら、毎日を精一杯大切に生きていくことを意識したいものです。

また、アメリカの物理学者、アインシュタインは言います。

「私たちの生き方には二通りしかない。奇跡などないと思って生きるか、すべてが奇跡であると思って生きるかである」

私たちは、つい足りないものに目を向けてしまいがちですが、世界は奇跡に満ち溢れています。この学び舎で出会ったすべての人と出来事は、人生に大きな意味を与えてくれたのではないのでしょうか。

皆さんは、「文武両道」の校是のもと、何事にも全力で取り組んできました。昨今、「コスパ」「タイパ」と、効率ばかりが重視されたり、自分の利益になるかどうかで判断することが潮流となっている時代において、一見無駄に感じられることの中にこそ、人生を豊かにするためのタネが存在しています。利己的で傲慢になりそうな時には、今の自分には知り得ない真理があるのかもしれないという謙虚な姿勢でいたいものです。皆さんが、この伝統ある桜丘高校で試行錯誤しながらも、信じて最後まで手を抜くことなく努力し続けたことは、いつの時代にも変わらずに必要とされる力となったはずです。仲間を大切にしながら切磋琢磨し、自分を高めていく姿勢、協働で新しい価値を生み出すこと、これらもこれからの社会で最も必要とされる力です。部活動や桜高祭など、時代は変わっても大切にされる学びがそこにあると、皆さんが一番実感してきたことでしょう。そして、「他者に共感する力」の大切さを、皆さんは、多くの場面で仲間に寄り添い、支える姿として見せてくれました。どれだけ生成AIが、それらしい提案や壁打ち相手になってくれたとしても、絶対にとって替わることのできないものです。

戦争や自然災害、急速な人口減少に伴う社会の変化など、その課題解決には皆さんの力の発揮が待たれています。本校で培った力と使命感で、自分事として、よりよい社会づくりに貢献してくれることを期待しています。

終わりに、保護者の皆様、改めてお祝いを申し上げます。ここまで、言葉に尽くせない、いろいろなご心配やご苦勞があったことと思います。もちろん、お子様がいたからこそその喜びや感動も感じる事ができた3年間だったのではないのでしょうか。ここまで深く惜しめない愛情でお子様を支えてこられた皆様に敬意を表しますとともに、本校の教育活動にも多大なご理解ご支援を賜りましたことにお礼を申し上げます。今学び舎を立派に「大人」として巣立っていくお子様たちの力を信じ、これからも温かく見守っていただければと思います。

卒業生諸君が、健康で希望に満ちた未来を築かれることを祈念して式辞といたします。

令和八年三月三日

石川県立金沢桜丘高等学校長 石尾 和彦